

教育現場における ICT 機器の活用

11003EMM

町田和也

今日、教育現場では ICT 機器の導入が進んでいる。2009 年と比較すると 2012 年では校内 LAN 整備率は 64% から 83.6% と約 20% 上昇、電子黒板の台数は 16,403 台から 73,377 台と約 4.5 倍と増加の傾向にある。また地域別に見ていくと電子黒板やデジタル教科書、校内 LAN 整備率などに開きがあり、多くの都道府県は機器の導入が進んでいない、教員の ICT 活用指導力が低いという問題を抱えている。しかし愛知県は ICT 機器の導入は全国トップレベルで進んでいるが、ICT 活用指導力が非常に低いことが分かった。つまり愛知県の多くの教育現場では、ICT 機器が上手く活用できていないと考えられる。そのため本論文では、愛知県の教育現場での取り組みについて着目しながら論じた。

本論文では導入が進む電子黒板やデジタル教科書など ICT 機器についての特徴をまとめた。その特徴を生かすことができるか、ICT 機器を活用した授業について分析をした。名古屋市立千年小学校石田恵将教諭が一体型電子黒板を利用した小学 5 年生算数科の授業、楠元町子教授協力の下、大学 2 年生の講義内で筆者がシート式電子黒板を利用した社会科の授業を参考に ICT 機器の効果的な活用方法について考察した。種類の違う電子黒板の活用方法や利点・欠点などについてアンケートや授業の様子からまとめた。また知多市と東海市、阿久比町の報告書を参考に ICT 機器の利用方法や効果についてどのような取り組みがされているか考察した。愛知県の ICT 機器の活用がどのように進み、現状で抱える課題を確認することで、今後の愛知県の ICT 機器を活用していくにあたって筆者が提案をした。

研究を通して教育現場における ICT 機器の現状がわかった。ICT 機器が導入は進んでいるが、地域によって差も大きくまだまだ普及の余地が残されている。また ICT 機器の導入と同時に教員の ICT 機器活用指導力の向上も求められている。ICT 機器が普及されることも大切だが、それを利用する教員の指導力を高め授業に活用していくことが必要だろう。